

## 大学

福祉貢献学部 福祉貢献学科 子ども福祉専攻

コミュニティ・アクティブ・ラーニング

白石 淑江 教授 / 岡田 泰枝 准教授

スウェーデンでの研修を通して  
保育・幼児教育の広い視野を養う。

福祉先進国・スウェーデンの保育制度は、保育や幼児教育の世界モデルと評価されています。日本とは異なる環境で学びを深めることができるよう、子ども福祉専攻独自のプログラムとして2015年度から「スウェーデン保育研修」を実施してきました。専門科目の一つとなった今年度は3年生12人が履修。事前学習を経て8月末から9泊11日の日程でスウェーデンを訪れ、保育施設・文化施設の見学、就学前学校での観察実習、交流会などに参加しました。個を大切にし、自立や他者との協働を重視するスウェーデンの保育を体感しながら、言葉の壁をこえて子どもたちと心を通わせた学生たち。担当教員である白石先生は「国際的な視野を広げてよりよい保育を追究し、実践していく、そのきっかけとなる貴重な体験を重ねてほしい」と、将来の保育・幼児教育を担う学生へ期待を寄せています。



## 愛知淑徳の授業

生徒・学生の意欲に応え、一人ひとりの可能性を広げる愛知淑徳学園のさまざまな授業を紹介いたします。

## 中学校

愛知淑徳中学校

理科

高野 恭子 教諭

身近な現象と結びつけながら  
学びを楽しむ 知的好奇心も伸ばす。

「なぜケーキやシュークリームの生地が膨らむのでしょうか。素朴な疑問を生徒に投げかけ、炭酸水素ナトリウムの化学反応について解説する高野先生。中学校2年生のクラスで行われたこの日の授業は、物質の成り立ちがテーマです。化学実験に向けた事前学習を強化して、生徒の知的好奇心を引き出します。愛知淑徳の理科では、生徒が主体的に学べる「実験」を重視し、さらに3年ごとに理科旅行も実施。生徒一人ひとりの「体感」「発見」を大切にしている。伝統を受け継ぎながら、高野先生は理科の新たな授業づくりに取り組んでいます。「自分の言葉で化学反応を説明する課題を出していますが、そのねらいは考える力や伝える力を伸ばすこと。新しい知識を得る楽しさを知り、自ら疑問を持つて学ぶ力も育てていきたいと思っています」と高野先生は生徒の人的な成長にも心を傾けています。

